

2018年7月6日

## 「美しい顔」に関する経緯のご説明

株式会社講談社（本社：東京都文京区）は、7月3日付のプレスリリースにおいて、群像新人文学賞当選作「美しい顔」の受賞決定からこれまでの詳しい経緯について、後日ご報告することをお伝えしていました。

本日、群像編集部から「美しい顔」に関する経緯を発表いたします。

---

「群像」2018年6月号に掲載した第61回群像新人文学賞当選作「美しい顔」（北条裕子）について、本日発売「群像」8月号巻末にて告知文を掲載いたしました。さらに、当選作決定から今日までの経緯について、以下ご説明いたします。

**4月10日** 第61回群像新人文学賞の最終選考会において、「美しい顔」が当選作に決定しました。当該新人賞は昨年10月末に応募を締め切り、2003篇の応募がありました。

**4月12日** 作者の北条裕子氏が来社し、編集部で初めて面会しました。その際、「群像」6月号（5月7日発売）での掲載・発表に向けて、著者校正用に当選作のゲラ刷りをお渡しするとともに、編集部から北条氏に、「今回の応募作を書かれる上で参考にされた本などの資料があれば教えてください」と伝えました。なお、当選作決定からこの初面会におよぶ連絡のやりとりから、北条氏が妊娠中で4月末の出産予定日を控えていることがわかりました。

**4月20日** 北条氏の著者校正済みのゲラ刷りを受け取るため、編集部員がご自宅へ伺いました。このとき、『遺体 震災、津波の果てに』（新潮社）、『3.11 慟哭の記録 71人が体感した大津波・原発・巨大地震』（新曜社）を始めとする主な参考文献について北条氏から提示され、編集部員が机上のそれらの本を目視しました。

しかし、この時点での北条氏にとって「参考文献」の認識が十分ではなく、また初めての自作の小説雑誌での掲載・発表であった北条氏に対する編集部の確認も不足していたため、編集部と北条氏双方で問題を認識できませんでした。さらに、この時点での北条氏の記憶から、執筆時に参考にした文献の詳細と、応募時から半年以上経っていた自作の「美しい顔」の表現との関係について、整理して思い出すための時間が必要だと編集部員が認識しました。そして、出産を目前に控えた北条氏に対し、3日後の校了までに詳細をつめ

# 講談社

てゆくことは困難だと判断し、そのまま適切な対応ができずに23日の校了を迎えてしまいました。

**5月9日** 群像新人文学賞・同評論賞の贈呈式が開催され、前月末の出産を経た北条氏が出席しました。贈呈式前の打ち合わせ時に、編集部員の求めに応じ、「美しい顔」単行本化のための資料として、北条氏が自身所有の主要参考文献を持参されました。

また、このときまでに北条氏の記憶を整理してもらい改めて確認したところ、「美しい顔」を書く上で主に参考にされた文献として、『遺体』と『3. 11 慟哭の記録』の2点を挙げられました。『遺体』からは特に遺体安置所などの状況について示唆を受け、『3. 11 慟哭の記録』からは被災地全般の状況について示唆を受けた、という旨のことをうかがいました。

北条氏の認識によれば、現地を直接見ていない自分が、震災直後の被災地の様子を小説として描く上で、客観的な事実と反することのないように、自身が読んで感銘を受けたノンフィクション作品と、被災者の手記の集成であるこれらの文献を主な手がかりにさせていただいたということでした。編集部でそれらの文献を預かりました。

**5月10日** 編集部の調査で、『遺体』については5点の類似とみられる箇所を確認しました。また別途『3. 11 慟哭の記録』についても、類似とみられる箇所を確認しました。

そこでまず、類似箇所のうち、より同一に近い記述を含んでいると認識した『遺体』の著者である石井光太氏にご連絡をさせていただき、直接事情をご説明申し上げてお詫びするため、面会の希望をお伝えしました。

**5月14日** 石井氏と初めて面会し、「群像」6月号での参考文献未表示についてお詫びした上で、類似とみられる箇所については単行本時に表現を改めさせていただきたい旨をお伝えしました。このとき、石井氏はまだ「美しい顔」を読まれていなかったため、読まれた上で版元の新潮社と相談して連絡をいただける旨をうかがいました。

以後、石井氏の代理人としての新潮社の方々と、協議を開始しました。

**6月下旬** 新潮社を通して石井氏と協議を続ける中で、「群像」8月号（7月6日発売）で参考文献未表示の過失に関する告知を掲載する方針が決まり、その中で「美しい顔」の主要参考文献として、『遺体』『3. 11 慟哭の記録』に加え、『メディアが震えた テレビ・ラジオと東日本大震災』丹羽美之／藤田真文編（東京大学出版会）、『ふたたび、ここから東日本大震災・石巻の人たちの50日間』池上正樹（ポプラ社）、文藝春秋2011年8月臨時増刊号『つなみ 被災地のこども80人の作文集』（企画・取材・構成 森健／文藝春秋）の5冊を明記することを、北条氏と編集部で確認しました。

**6月25日** 『3. 11 慟哭の記録』の版元である新曜社から群像編集長宛の6月22日付けお手紙をいただくかたちで、「美しい顔」の中に同書の記述と類似しているとみられる箇所のご指摘を受けました。同書は、『遺体』と並んで被災地の記述にあたり北条氏が示唆を

おもしろくて、ためになる

# 講談社

受けていたことを編集部で認識していながらも、編者である金菱清氏に対するご連絡が遅れておりました。

結果として先方からご指摘を受けるかたちとなり、編集部としては直ちに金菱氏と新曜社にお詫びを申し上げ、以後、現在も協議中です。

**6月28日** 参考文献未表示の告知が掲載される「群像」8月号発売（7月6日）を前に、読売新聞社より取材の申し込みが入り、編集部責任者が取材に応じました。

またこの時点で、告知掲載を前に、群像新人文学賞の選考委員の方々にご連絡し、今回の経緯をご説明しました。

**6月29日** 読売新聞朝刊の記事を皮切りに、マスコミ各社の報道が始まりました。

ここで、主要参考文献5冊のうち、すでに協議を開始していた『遺体』と『3. 11 働きの記録』以外の3冊の書名が報道されたことにより、その著者編者および版元の方々に多大なご迷惑とご心配をおかけすることとなってしまいました。以後、版元三社のご担当者様に参考文献未表示についてのお詫びのご連絡と、「群像」8月号での告知掲載についてのご報告をさせていただきました。

**7月3日** 6月29日からの報道により、インターネット等で北条氏および「美しい顔」に関して、誹謗・中傷が続く事態に対応するため、弊社見解をリリースいたしました。

**7月4日** 「美しい顔」全文を講談社ホームページに公開いたしました。

今回の「美しい顔」に関する経緯のご説明は、以上になります。

文献の扱いに配慮を欠き、結果として主要参考文献の著者編者および関係者の方々、さらには東日本大震災の被災者と被災地で尽力された方々に大変ご不快な思いをさせたことを、心よりお詫び申し上げます。

なお、本件については現在も関係各位と協議中であり、協議内容の詳細については公表を差し控えさせていただきます。

群像編集長 佐藤辰宣

---

※北条氏の個人情報については、同氏と協議のうえ了解を得て記載しております。